

会 議 録

会議名	令和7年度第5回印西市地域福祉計画推進委員会 会議
開催日時	令和8年2月9日（月） 午後2時00分から午後3時40分まで
開催場所	印西市役所 204会議室
出席委員	松山毅委員長、矢野忠行副委員長、大下誠委員、嶋田孝雄委員、近藤幸一郎委員、岩本清委員、笠井幸夫委員、田畑一生委員、篠田吉範委員、塚田昌幸委員、鈴木幸子委員、御子柴寛委員 計12名
欠席委員	三島木健委員、平野浩二委員、佐久間郁美委員 計3名
出席職員等	[事務局] 社会福祉課 澤田課長、坂巻課長補佐、鈴木係長、本田係長、石井係長、山崎主査
傍聴者	なし
会議次第 議 題	1 開会 2 議題 【報告事項】 パブリックコメントの実施結果について 【議事】 第5次印西市地域福祉計画（最終案）について 3 閉会
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 第5次印西市地域福祉計画（案）市民意見公募手続（パブリックコメント）の結果 ・ 第5次印西市地域福祉計画案

会議概要・審議経過

1 開会

【事務局】 「令和7年度第5回印西市地域福祉計画推進委員会」を開会します。

資料の確認、会議の公開と会議録作成のための録音、会議の傍聴について報告

2 議事

【議 長】 議題に入る前に、会議録の署名委員を指名したいと思います。署名委員は名簿順に、鈴木委員と御子柴委員をお願いいたします。

報告事項 パブリックコメントの実施結果について

【議 長】 「第5次印西市地域福祉計画（最終案）について」、事務局からご説明をお願いいたします。

【事務局】 報告事項について説明

【議 長】 既に意見について事務局にて対応済みということですが、報告事項ということですが、感想や意見があればお受けします。いかがでしょうか。

【委 員】 パブリックコメントそのものについて、フィードバックは大体このような感じなのでしょうか。

【事務局】 第4次計画では意見提出者は1名でした。計画によっては20名以上ということもあるようです。

【事務局】 大体いつも通り位ということで、承知しました。

【議 長】 その他にありますか。パブリックコメントは本来はもう少し多くの方に目を通してもらい、反対だけでなく賛成の意見も含めてリアクションがあると、地域福祉計画として自分事として捉えてもらえているということになります。各委員の所属団体のメンバーに周知してお目通しいただく、ということをお次回以降考えられるとよいかもしれません。パブリックコメントについては以上でよろしいでしょうか。それでは、議事に移ります。

議事 第5次印西市地域福祉計画（最終案）について

【議 長】 「第5次印西市地域福祉計画（最終案）について」、事務局からご説明をお願いいたします。

- 【事務局】 議事について説明
- 【議長】 これは、議会等で承認を得るものではなく、今後庁内の本部会にかけるというものでしょうか。
- 【事務局】 その通りで、その本部会において市長・副市長も確認する運びとなります。
- 【議長】 市民として意見を言えるのは今回が最終段階ということです。何かご意見・ご質問等がありましたらお願いします。
- 【委員】 前回意見した重点取組について、基本目標の説明をした後に掲載しては、と言いましたが、ここに置くという強い意志を感じまして、これでよいと思います。重点取組と基本目標の評価は、毎年PDCAを回して見直すかと思いますが、両者の評価の手法は変えるお考えがあるのでしょうか。検討中であるならそれでよいのですが。それが1点で、また35ページの新たに設定した指標について、数値の現在地はアンケート結果から出ているかと思っています。これは、5か年計画の4年目に1回だけ行うということで、そのタイミングで評価をするということです。この中の「生活上の心配事や困り事について、相談できる人がいない割合」は3・3%ということで、これを下げるというのは誤差範囲の話で、あまり意味がないように感じました。また、「生活上の心配事や困り事について、市・地域包括支援センター等の行政機関に相談している人の割合」これも、身の回りで相談できてしまうと、こうした機関には相談しなくてよいということであるので、これも少し微妙であるように感じました。今さらであり申し訳ないですが、意見として伝えました。
- 【事務局】 まず評価の方法については、正式にはやはりまだ決定していないが、これまで各取組の数量評価を行い、各課で設定した数値を基に評価していましたが、それだけでは地域福祉の推進を行えたかは測りづらく、説明が難しいので、重点取組については説明できるように重点的に評価していきたいと考えています。指標については、市長・副市長とも相談する中で、最終成果として使えるものと考えたとやはりアンケート位しかなく、誤差の話もあるが、例えばその時に流れているニュースなどにも左右されると考えている。やはり何パーセントにすればよいという設定は難しかったので、今回はこの数値を参考の基準として見ていくことになるかと考えている。
- 【委員】 3・3%というのが気になっている。
- 【事務局】 悪くなったらその原因を考えることもできる。
- 【議長】 そのほかはいかがでしょうか。
- 【委員】 最終案という事で、前回より良くなり、すごいなと思っています。問題は、策定した後に実行するのは市民ということになります。これをどう1人でも多くの市民にわかしてもらおうかということが大事だと思っています。市役所としても大変だと思いますが、各種団体と協力しながらしっかり周知してほしいと思います。また、この印刷部数等も聞

きましたが、その数で果たして市民に徹底できるのだろうか、と考えています。またもう1点、3.3%というのは合っているのでしょうか。確かこのアンケート結果の報告の際に、「どこに相談してよいかわからない」というケースが課題として挙がっていたかと思います。認識とだいぶ異なるように思いますが、問題ないでしょうか。

【議 長】 私も気になっていました。いる、まあまあいる、のような5段階評価をした結果なのではないでしょうか。推進をどうするのかということと合わせて、考えがあれば伺います。

【事務局】 地域福祉推進係というものが新しくでき、計画策定に携わってきました。市の現状もだいぶ自分の中ではわかってきた気になっています。今後は社協・支部社協や民生委員等の活動団体に足を運び、顔を見せ、できることを聞きながら地域がつながっていけばよいと考えています。また、指標の3.3%については、手元に資料がないが、確か選択肢として家族や友達など色々あった中で、その中で誰も相談相手がいないという人を指している。どこともつながっていない方ということで、福祉の相談窓口につなげていきたいと考え、指標としています。

【委 員】 指標については、私も家に帰って確認したいと思います。

【委 員】 家族や友人など、選択肢としては10以上並ぶ中で「相談相手がいない」人を対象としており、これをなくしていきたいという考えです。

【議 長】 考えはわかりましたが、この指標だけが独り歩きしてしまう懸念もあるので、属性別に状況を見て、アプローチが必要な方を対象とするということも重要かと思えます。根拠があることはわかりました。また、先程の意見の前半にあった通り、今後は周知ということになります。計画のダイジェスト版でもいいので、総会等にお持ちいただき、ご紹介をお願いしたい。

【委 員】 重複しますが、今回このように計画をまとめ、概要版も最終的には1,000部用意されるということですが、この概要版がどのようにまとまるのかは非常に興味があり、配る対象の年齢層も低くなるのが考えられるのかと思い、期待があります。具体的にどういう方を対象として、どういう計画で周知していくのでしょうか。また、以前のこの会議で地域懇談会の話題がありました。自身は参加できませんでしたが、市民の生の声をプランに反映させていくことができる機会です。参加しやすいよう日程等も工夫して、今後の開催に向けて期待したいと思います。

【事務局】 まず、計画書自体は300部、概要版は1,000部作成します。一般の方が手にするのは概要版になろうかと思えます。前回の意見でもあったように、市の現状から目指すもの、取組までの流れがわかるように作りたいと思います。その使い道については、各福祉団体に対してや、地域福祉計画について講座等で話す場面などで使っていきたいと思えます。また、懇談会については、他市の地域福祉の進め方を見てもみますと、こうした場をうまく使っていて、市民と話し合える場を設けています。できる形から少しずつ連絡会のようなものを始めていければと思っています。

- 【委員】 せっかくコスモスパレットのような立派な広いものができているので、計画の説明会のようなものはやらないのでしょうか。
- 【委員】 アンケートをみると、地域福祉計画について名前も中身も知らない方が71%にもなっています。今のような話は大事だと思います。
- 【議長】 他市では計画策定のためだけではなく、推進のための会議を毎年開催して、中学校区レベルで毎年テーマを決めて懇談会を開催したりしている。また、地域福祉フォーラムということでテーマを決めて開催したりしていて、その中で計画の進捗状況を報告したりしています。予算もかかってくるが、作りっぱなしにしないで市民にお披露目して双方向のものとしていくことは、難しい事ではないと思うので、社協とも連携しながら進めてほしいと思います。他にあるでしょうか。
- 【委員】 広報を全戸配布としているので、そこで周知を行えるとよいのではないかと思います。
- 【事務局】 広報は現段階では「計画ができました」ということだけになるかと思いますが、貴重なご意見ありがとうございます。
- 【議長】 他の市町では、広報にダイジェスト版を挟み込んでいたりもします。また、PDFをアップして印刷して使ってもらうこともできます。広報だとスペースの問題があるかと思いますが検討してみてください。他にあるでしょうか。
- 【委員】 35ページについて、私も3.3%の所が気になりましたが、ここに「※」がついていて、この意味がわからないかと思います。
- 【議長】 逆転項目ということで、低下することが目標ということです。
- 【委員】 下の※印につながると思うが、意味がわからなかった。
- 【事務局】 これは別の事項であり、表の上の説明にかかっています。
- 【議長】 「*」と「※」がわかりづらい。普通の計画にはこのページはなかったりするかと思います。ターゲットがはっきりしていないとよくないということで数値にしたのかと思いますが、せめて数値の意味は、「アンケートから取っている」などわかる形にしてもらえればと思います。記号の意味も含めて工夫をお願いします。また、33ページは、再犯防止推進計画についての記載がありますが、これはここだけが該当するのでしょうか。一体のものとして策定しますと言っている割には、他の成年後見の計画等と違って見えます。
- 【事務局】 再犯防止についてはこれをもって計画として設定しています。
- 【議長】 コラムについてもある通り、一体化しているということではありますが、少し1つの取

組にとどまっている印象ですが、問題ないようであればよいです。また3ページの一番下の説明で「地域福祉活動計画」についての記述がありますが、「より細かい」ではなく「より身近な」という表現がよいかと思います。他はいかがでしょうか。

【委員】 前回見落としていたのですが、医療的ケアに関する協議の場を市でも開催しています。20ページの避難行動に関する重点取組5の中に「障がいのある人や海外にルーツを持つ人も参加できる防災訓練」という説明もある中で、可能であれば医療的ケア児・者もこの中に入っていると、社会的弱者と言われる方々を網羅できるのではないかと思います。市の担当課との間でもこのような話があったので検討してもらえればと思います。また、推進の所について、PDCAサイクルでやっていきたいと思います。この会議体自体は策定の会議体ということでしょうか。そうするとどこがPDCAを担うことになるでしょうか。

【事務局】 避難行動要支援者の中には、一人で避難できない方が含まれますので、当然その中には入って来る。表現は考えたいと思います。また、この委員会は、計画の推進評価も行っていくものであり、かけるとすればこの会議体にかけていく。委員の任期は2年間になっていて、令和8年の12月までとなっている。スケジュールとしては、令和8年の6月～8月頃に第4次計画の最終年度の評価を行います。そのタイミングまでは皆さんにご参加いただくということです。

【議長】 今回策定した第5次計画は我々の後にまた委員が招集され、評価の仕組みとしては残るということです。ほかにはありますか。

【委員】 表現上の話ですが、上の「現在地」の所は令和6年度となっていますが、発行のときにはズレが生じることとなりますね。

アンケート実施時点のことを書いており、令和6年度となっています。出典がアンケートであることを示せば、「R6年度」とは書かなくともよいかもしれないと考えています。

【委員】 2年前のものと比較するのか、という印象にもなりうる。

【事務局】 計画策定は昨年度から始めており、アンケートを取ったのは令和6年度なので、ここで記載するとなるとこのようになる。

【委員】 実際にそうするというのであれば、邪魔かと思います。

【事務局】 出典の元を書いて、現状値の所からは外してもよいかと思います。

【議長】 策定前にアンケートを行っているので、タイムラグが生じているということかだと思います。

【事務局】 出典を書くとしても、下には入る。それでよいか。

合意

- 【議 長】 資料編としてアンケート結果は示さないのか。
- 【事務局】 アンケート結果そのものは示さないが、
- 【議 長】 課題をどのように集めたか記載する所に、アンケートを行ったということは書いてあったかと思います。どのように策定したのかということは書いてもよいかもしれません。
- 【事務局】 8ページに文章として記載してあるのと、報告書はホームページ上で公開しています。
- 【議 長】 本当は、いつどのようなアンケートを実施して、回収率がどうだったのかなどは1ページ位で書いてもよいかと思います。その辺りは工夫・検討してもらえればと思います。
- 【事務局】 現行計画の60ページにもご意見と同様の記述がありますので、その辺りを資料編に載せたいと思います。
- 【議 長】 ほかはいかがでしょうか。毎回皆さまから意見を頂いて、中身は濃密な計画になっているかと思います。重点取組として抜き出してあるのは、推進の段階ではここを中心に進捗をみて、委員会でも議論していくこととなります。ここが中心的に取り組む課題なんだということになるので、概要版でも打ち出してほしいと思います。それを進めるための取組のアイデアについてもこの委員会で頂ければ、意義があるかと思います。内容についてはこれでよろしいでしょうか。この後、事務局を中心に修正し、進めていきます。それでは、議事は以上とさせていただきます。そのほか、事務局から何かあるでしょうか。
- 【事務局】 今後、修正して本部会に進め、了承をもらい、計画として完成となります。その後、印刷・製本を行い、早ければ3月中にお手元にお届けできるかと思います。
- 【議 長】 それでは最後に一言ずつ感想を頂ければと思います。
- 【委 員】 色々な立場の方が色々な意見を言い、活発な議論を行う場があるのだなと安心した。一方、重要なのは実務を担っている市役所職員のその実務の部分であると思います。期待しています。市長からは肝いりで「これをやりなさい」のような指示はあるのでしょうか。
- 【事務局】 基本計画については、地域共生社会の実現などが大きな項目として掲げられていて、本計画にも関わる所です。担い手不足や福祉間の横の連携、重層的支援体制整備事業などを関連する取組として盛り込んでいますが、そこまで大きい指示があるということではありません。
- 【委 員】 特に他意はないですが質問しました。自身は、以前夏祭りの準備に関わったのが良い思い出でしたが、自治会役員を抜ける人が多く、廃止になったということです。コミュニ

ティ維持のためのアイデアがあればよいと思います。

【委員】 色々と言う事は言っても、まとめるのは大変だろうと思いつながら発言しています。福祉という、本当は自身も当事者なのですが、計画ということになると、当事者の意識から離れてくるのが実態ではないかと思つています。そうだとすると、どう引き込むかということになります。そこは、紙に書いた行間にあるものを、表に出して色々と行動してみることが求められると思つています。

【委員】 策定においては色々苦勞があつたと思つています。居場所づくりという部分を計画に入れてもらったのは画期的です。支部社協を中心はどこでも担い手の高齢化ということが言われているので、居場所を起点に機能させ、周知・担い手確保につなげていきたいと思つています。

【委員】 計画策定は苦勞があるものですが、ここまできたら、形骸化させるのではなく、実りのあるものにぜひしてほしいと思つています。

【委員】 地域福祉とは難しいんだなと実感しています。やはり、組織的にもできません。1人1人どうつながっていくのかということが基盤にあるのが地域福祉かと思つています。最近は見方が変わってきましたが、これまでは後回しにされているものでした。第3次・第4次と策定員を務めてきた中で、かつての自身は尖つていてご迷惑をかけたかと思つています。よい経験ができたと思つています。

【委員】 「連携」という言葉が多く、30回以上出ています。前回の計画を見ると10回程度でした。前回は「体制づくり」に着目されていて、今回はそれを踏まえて「連携」ということになっているのだと思つています。社会課題の複雑化・複合化ということに対応する中でこうなつたのだと思つ、改めて連携が必要だと思つました。

【委員】 地域福祉は難しいと思つています。こうやって色々考えながら計画が作られ、自身の仕事にどうつながるのかわかり、勉強になりました。市民に向けた周知も一緒に考えていければと思つています。

【委員】 市の大きな計画がどのようにできあがっていくのか、この委員会で学べました。いつも学校では子どもたちと一緒にいますが、子どもたちとどう結びつけてよいか考えると、子ども達は元気なので、中々つながらないなと考えていました。ただ、目の前の子どもたちが10年後に大人になって、今は特別支援の教育を受けている子どもが増えてきています。そうでない、他の大人と変わらない仕事をしていくことになります。大人の中にも文章を読めていない・わかつていない人がいるんだということも重要です。保護者の中にもそういう方はいます。アンケートを取るのであれば、学校をうまく利用することも一案である。保護者会等の場もあるので、そこに足を運んでもらい、困りごとの状況を聞いたりするのも1つかと思う。文字では入ってこなくとも、映像・視覚では入ってくるという人もいます。そうすると、より寄り添つた対応ができると思つています。

【委員】 自身は障がい者プランにも関わっており、その上位計画であるこの地域福祉計画がこの

ようなプロセスでできあがっていくのだと理解できたこと、またそこに関われたことは財産になっています。上位計画であるこの計画を、行政の担当課にも見てもらえるとういのかなと感じています。

【委員】 33ページにある地方再犯防止計画の観点で、参加させていただきました。法務局から各市町にお願いに上がっていて、現市長になったことで策定を承諾してもらったのかなと思います。再犯防止計画のみ単独で策定することもあります。このように合冊で策定することもあり、どちらでも構わないと私たちは考えています。先程も話がありましたが、親に問題があるようなケースも見られます。行政が面倒をみてあげる窓口をつくってあげるのはよいことかと思えます。保護司についても人材難であるので、今後参画を期待したいと思えます。

【委員】 高齢者に対する就労支援を通して、地域福祉の一翼を担っていると自負している。皆さんの意見や提供資料に触れるにつけて、地域福祉とはとても守備範囲が広いのだなとかなりショックを受けた会議でした。対象も、市民11万人で、ここに満足してもらう必要があるということです。策定後にも大変苦労があると思えます。当団体としてもどう地域福祉計画に関わっていけるのか、もっと考えていかなければいけず、職員にも周知徹底していかないといけないなと思えます。

【議長】 会議の中では中々言えなかったこともお聞かせいただけたかと思えます。これですべて終わりましたので、事務局にお戻しいたします。

その他

【事務局】 議事進行ありがとうございました。皆様には長時間貴重なご意見を頂戴し、ありがとうございました。任期はここで終わりではないので、引き続きチェックの方もお願いしたいと思います。それでは、以上で「令和7年度第5回印西市地域福祉計画推進委員会」を閉会します。

令和7年度第5回印西市地域福祉計画推進委員会会議の会議録は事実と相違ないことを承認する。

令和 8年 2月 9日

署名委員 鈴木 幸子

署名委員 御子柴 寛